

えがお 笑顔



2023年度 学校だより
綾川町立昭和小学校 第2号
作花 志保 4月28日発行

「お家の人にぎゅーっとしてもらう宿題」の出る“ふれあいの日”を始めます。

今まで毎月23日は、ノーメディアデーとして、メディアに触れる代わりに親子のふれあいを深めてもらう取組を実施していました。今年度より、ノーメディアデーではなく、その日は「お家の人にぎゅーっとしてもらう宿題」だけを学校から出して、その宿題が終わったら、親子で読書をしたり、料理をしたり、映画やドラマを観て感動を分かち合ったりして過ごす「ふれあいの日」としたいと思います。

今年度、「活気と笑顔があふれ 子どもも大人も幸せな学校づくり」を目指して、裏面のような目標や重点課題に向かって、教職員一丸となり、“チーム昭和”でがんばります。私は、いじめがなく誰もが幸せな学校づくりの第一歩は、子ども達一人一人が、自分を誰かとの比較ではなく、自分らしさを大切にする自己肯定感をもって生きることだと思っています。そしてその自己肯定感は、周りの身近な人からたっぷりと注がれる愛情によって、子ども自身も愛情豊かな気持ちをもつようになるといわれています。愛情を受けることなく育つと「愛着障害」という状態になり、そのまま成長すると、人を愛するという感情が理解できない大人になっていき、最も身近な人間である自分自身を、客観的に理解することもできなくなり、自己を否定的に捉えてしまうと、小児科医である古荘純一氏は、著書『自己肯定感で子どもが伸びる』の中で述べています。また、「自分は大切にされている」という気持ちの大切さについて以下のようにも述べています。

「自分は大切にされている」という自信は、「自己肯定感」の根底になる感覚といえるでしょう。「自己肯定感」のもっとも基本的な条件は、「基本的信頼感」だといわれています。基本的信頼感は、赤ちゃんのときに芽生えるとても重要な感覚で、心と脳の発達の基本となるものです。赤ちゃんには、食事、排せつ、着替えなど、生きるための世話が必要で、多くの場合は親が行います。親から世話をされることで、「自分は大切な存在」と感じ、「自分への信頼感」を獲得します。「自分への信頼感」を獲得すると、自分を信じることができ、必要以上に自分を責めないで物事をシンプルに捉えることができます。

赤ちゃんはこうした世話を受け、愛情を与えられることを通して「この世界は信じるに値する」と感じ、「他者への信頼感」も獲得します。「他者への信頼感」を獲得するようになると、周囲の人々への警戒心をもち、素直に打ち解けて、よい関係が築けます。

その後も身近な家族や友だち、先生などとの信頼関係のなかで、基本的信頼関係はゆっくり育まれていくと考えられています。友だちを受け入れて良好な人づきあいができるようになるので、さらに「自己肯定感」は高まっていくでしょう。

ところが、基本的信頼感が作られる時期に自分の存在を否定されると、世の中がよきものとは思えず、自分自身を受け入れられずに自分を否定し、自分を愛することができなくなってしまいます。そのため、虐待や暴力を受ける、愛されずに育つといった過去があると、「自己肯定感」の土台である基本的信頼感が抜けてしまい、「自己肯定感」は低くなってしまいます。

学校でも子どもたちが、笑顔で毎日を過ごせるように、「自己肯定感」が育つような取組や声掛けに努めてまいります。この「お家の人にぎゅーっとしてもらう宿題の日」の取組は、いもとうこ作の絵本「しゅくだい」を読み聞かせて、子どもたちにお知らせします。ご家庭でのご協力をどうかよろしくお願いいたします。5月のふれあいの方は、19日（金）といたします。実践してみても感想等があれば、連絡帳などを通してお聞かせいただければ幸いです。

不審者情報は、西警察署にお知らせを。

不審者に遭遇した等の訴えが、子どもからあれば、速やかに警察に連絡をお願いします。警察署からの依頼です。



安全な自転車の乗り方を心がけましょう。

道いっぱいに広がって自転車を走らせたり、危ない乗り方をしたりしている様子を見聞します。自転車は車両と同じです。スピードが出れば、怪我も大きくなるし、人を傷つけることにもなります。ルールを守って、乗りましょう。できれば、ヘルメットも着用して、頭を守りましょう。

